

会 議 録

会議の名称	令和5年度 第2回西東京市生きる支援推進計画策定検討会議
開催日時	令和5年8月21日（月） 午後1時から2時30分
開催場所	田無イングビル3階 会議室
出席者	座長、副座長、C委員、D委員、E委員、G委員、I委員、K委員、L委員
議 題	(1) 第1回西東京市生きる支援推進計画策定検討会議 会議録承認について (2) アンケート調査の進捗報告 (3) これまでの計画の評価について (4) 次期計画の策定について (5) 今後のスケジュールについて
会議資料の 名 称	・資料1 西東京市健康づくり推進プラン策定のための市民の健康に関するアンケート ・資料2 第1回西東京市生きる支援推進計画策定検討会議 会議録
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会 議 内 容	
<p>1 開会 健康課長挨拶、資料確認、欠席確認（F委員、H委員、J委員、L委員欠席）</p> <p>2 議題（1）会議録の承認について</p> <p>●座長 事務局より事前に会議録が届いていたが、修正等はないか。</p> <p>●委員 異議なし</p> <p>●座長 ないようなので、これをもって承認とする。続いてアンケート調査の進捗状況について事務局より説明をお願いします。</p> <p>●事務局 (アンケート調査進捗状況の説明)</p> <p>●座長</p>	

アンケートについてどれくらいの返答率か。

●プラン策定委託事業者（以降、A事業者とする。）

現時点では3割くらいである。

●事務局（課長）

前回、委員の皆様からいただいたご意見のとおり、生きる支援に関する設問にあたっては、資料2にあるように、相談先の一覧を掲載させていただいた。貴重な意見をいただき御礼申し上げます。

●座長

ほかはよろしいか。

●委員

特になし

●座長

では、10月の次回の会議において、意識調査の結果については、共有いただけるということで、お願い申し上げます。続いて、議題の3これまでの計画の評価に移る。

●事務局

以下について事務局より説明

- ・これまでの計画の評価について
- ・次期計画の策定（基本施策）

●座長

事務局の説明について質問意見はあるか。

●K委員

ふれあいのまちづくり事業における地域活動拠点における利用登録団体数について、市民互助の取組とあったが、他にコロナの影響で集まることができずに閉鎖・閉会してしまった団体や取組など把握されているものがあれば教えてほしい。

●事務局

どういった団体が減少して、増加したかというところまでは把握できていない。所管課に確認するなどしていきたい。

●C委員

この評価は自分たちで評価したもの、いわゆる自己評価という認識でよいか。

●事務局

そのとおりである。市の取組としてどう評価をしたか、というところである。

●C委員

では、いわゆるC評価となっているところも、実はできている部分もあったりするという部分は反映されないものなのか。

●事務局

たとえば、相談受付カードという項目では、カードとして活用していないので、項目としては「C」という評価になってしまう。しかし、実際には連携している。

●C委員

そうすると、できている部分というのがこの評価の中には表れていない、ということになるか。

●事務局

相談受付カードというと、個人情報の問題もあり、そういった連携は難しい。実際には、様々な悩みを抱えているご本人に、同意を取りながら、庁内ですらないでいくというところがあるので、「実態」なのか「文言」的な評価にするのか、は課内でも検討していく。

●M委員

最近、芸能人の自殺があった。相談を受ける中で、それを聞いた友人が自殺に及んだという。さらに、それを知った友人に、自殺をほのめかす発言があった。相談するにしても、どこも電話がつながらず、警察や病院に直接相談するしか方法がない時もある。

●座長

メディアでの報道による群発自殺に対しての対応についても今後考えていけたらよい。こういったご意見を踏まえてでもよいが、順番に意見や質問を頂戴したい。

●I委員

示されている自殺死亡率は多いのか、少ないのか。また、先進的な事例などの取組があれば、次回でも教えていただきたい。

●G委員

ゲートキーパー研修を受けたいと思っている人が多いことを感じる。そういう人をうまく市のゲートキーパー研修に結び付けられるとよい。こういった地域の力を上げていくことも私たちの仕事だと思っている。

●座長

先ほど事務局からも、評価の在り方について見直しが必要では、とのことだったが、G委員のおっしゃるように、色々な要因で各数値は増減しているので、増加することがよい

のかどうか、ということもある。そのあたり、今後どのように評価していくか、検討されるとよい。

●E委員

評価の解釈が難しいと思った。ABC評価だと、当然ながら、Aの評価も、Cの評価もあるので、計画全体で見たときにどうだったかというところがより明確に見られるとよい。達成の有無よりも、それをどう解釈して次に活かすかというところだと思うので、そこをもう少し掘り下げて次期計画に反映できるとよい。

これまでの計画には、核となる事業が現状としてはないと思う。実際には、それぞれたくさんさんの相談窓口はあって、対応してもらえるのだけど、では自殺したいという人が近くにいたときにどうしたらよいか、というのがなかなか見えづらい。人の生死に係る部分は繊細だし、いきなりどこかに電話してみようという気にならないこともあると思うので、何か核となるようなものが打ち出せると、市民への周知も高まるし、そこから各相談や事業との有機的な連携にもつながっていくので、考えていけるとよい。

●D委員

ゲートキーパーの研修については、それぞれの活躍の場所や役割によって、出会っている場所や関わる対象に様々な傾向がある。研修に来られている方の中には、実際にどう動いたらよいか分からなかったり、不安に思われたりする方がいらっしゃる。

職種別というところまではいかないが、研修の行い方に工夫がこらされるとよいと思う。eラーニングの検討など、多くの人を受けやすさを考慮して検討されるとよいかと思った。また、(支援を)どう届けるかというところでは、もう一つ何か施策があるとよいと思う。関心のある方は自ら情報を得たりできるが、隠れてしまっているエアポケットの1割という方への施策があるとよいと思う。

●C委員

自殺率を下げていくということがこの計画の一番の目標になってくると思うが、前回の計画について、何が足りなかったのか、どういったところを重点的に考えていけばいいのかというところが必要だと感じた。ゲートキーパーについては、なるべくそのゲートキーパーの方が市民に広めていけばいいのだと思うが、誰がその研修を受けている方なのかは分からない。アンケートの結果を見ながら、ゲートキーパーの広め方について、検討できるとよい。

●副座長

数値目標というところで、最終的には自殺死亡率の減少というところで達成できるかどうか大事だとは思う。一方で、それを減らすためには何が必要かについて、どこまで明らかになっているかと言われると、まだ研究でも不透明な部分が多いので、いろんな方面から検討していく必要がある。例えば自殺未遂者支援といったものなんかは、ハイリスクの方へのアプローチになるので、自殺死亡率に貢献していくと思う。全国や都道府県のデータと比較して、西東京市の評価につなげていくとよい。

また、複数の問題を抱えていると、相談への意欲やエネルギーが落ちてしまう。先駆的な取組としては、ワンストップで対応できる事業を展開している自治体もあるので参考にするとよい。

ゲートキーパー研修については、(一度受けたことがある方に対して、) フォローアップ研修などを開催して、より実践的な内容を検討するのもよい。

また、緊急的な対応ができる仕組みというのは、地域レベルで構築するのは難しい。個人でできることとしては、情報を見ない、拡散させないというところになってしまう。メディアの報道自体が、自殺について詳しく伝えてしまうといった課題を残している。市としてできることの一例として、NPO法人や、各団体に対して寄付を募るなど、そういった報道とセットで様々なところと連携するのもよいかと思う。

●座長

相談受付カードについては、他自治体の例も参考にしながら検討するとよい。数値に関しては、増えたから良いという評価でなく、何を意味しているのか、評価基準を検討の上、全体像も含め慎重に分析していく必要がある。

著名人の自殺については、各種相談窓口からの情報収集など調査ができると、それもひとつの施策になると思う。

ゲートキーパー研修については、受講した人が実践できているかということも大切。

一つひとつの事業の評価も大切だが、それで本当に西東京市の自殺死亡率が下がるのかという全体像も大切。基礎データのより具体的な分析や、より踏み込んだ調査が必要。また、実際に市でやっている事業で、著名人の自殺報道の後に相談件数が増えたのかどうかという点も気になる。それが対策につながる場合もある。それも一つの施策になると思う。

●K委員

著名人の自殺についての話があったが、ホームページのアクセス件数などすぐに分かるか。著名人の自殺があった月にはアクセス数が多くなったなどあれば教えてほしい。

●事務局

著名人の自殺がLINE相談の件数へ及ぼす影響は今のところ見てとれないが、相談内容の中身としては、影響を受けている人がいることを感じる。

●座長

様々な意見に感謝申し上げます。続いて、次期計画策定の方針について事務局から願います。

●事務局

以下3点について説明

- ・基本理念(案)
- ・基本施策4つ(案)について

・重点施策について

●座長

私から、重点施策について検討中とのことだが、現時点で考えられる施策があれば教えてほしい。

●事務局

西東京市のデータから見て、こども・若者については（重点施策が）必要だと思っている。傾向を見ていると、無職の方の自殺が多い。働く世代の方で、無職・生活困窮の方への重点施策が必要だと感じている。

●座長

具体的に検討している事業はあるか。

●事務局

今後、他課と調整・連携の上、検討していきたい。

●E委員

地域共生課のほうで、重層的支援体制整備事業を始められたと思うが、これまでであれば、相談者の属性によって相談窓口が分かれていたものを、課題の多いご家庭を複数の課題を同時に一括して考えていきたいと思いますといった事業だと思うが、そこに自殺対策という視点を取り入れて、何か連携が持てるようになると、キャッチする目は広くなると感じる。

●G委員

重層的支援の話がでたが、まさに私たちが担当しており、庁内連携が必要と思っている。私たちのところに集まる相談は世帯で支援が必要な場合が多く、色んな機関と連携することが求められている。重層的支援体制事業の会議の中で、必要と思われる担当課の方を呼ぶことができるため、連携がしやすくなると感じる。

●座長

すべての事業において「自殺予防」の観点を持って関わられるか、という点は大切だと思う。自殺予防という冠をつけると敷居が高くなるが、そうでなくて、専門職も市民も「自殺予防」の視点があるか否かで関わられるか否かだと感じている。

●K委員

基本方針のなかで、「地域で支えていく」というところがよいと思った。地域住民の一人ひとりが「どうしたんだろう」と思って、声をかけるといった昔だったら当たり前のことが、地域の中でできるとよい。

●D委員

次期の計画について「ともにつくる」という点がよいと思った。「まちづくり」というワードが入ってもいいかと感じた。働き世代の方への施策については、どう情報が届くといいかと考えたときに、団体や民間企業と連携したり、研修の中で「社員を支える」といった受け取りやすい表現があるとよいと思う。子ども・若者については、「啓発」のところに教育機関係へのゲートキーパー養成や、SOSの出し方教育について研修を受けた大人たちがどう子どもたちを支えていくかなど、人材育成にそういう部分が入ってくるといいと思う。

●副座長

自殺対策大綱の改訂で、自殺対策に従事する者へのメンタルヘルス支援が追加された。皆さん日々悩みながら支援をされていると思うが、そういった方向けの研修あるいは単純に事例検討を行うこともよい。技術を持っていないと、「死にたい」という方にどういう対応をしたらよいか悩んでしまう場合もある。技術を持っていても、緊急対応を担う部署の方などは、自分の生活を犠牲にして支援している場合もある。支援者への支援というのも、自殺対策の継続性が担保されることや、支援者自身のメンタルヘルスの改善にもつながる。

●座長

先ほどからも出ているが、相談につながりにくい層をどう相談につなげるか。大綱の中では、自殺に対するスティグマという形でうたわれているが、それよりももっと前の段階の精神障害のスティグマ、相談をしたり、支援を受けたりすることに対するスティグマなど、そういった視点が大切だと思う。また、遺族者支援の取り組みについて、自治体として取り組めることが提示できるとなおよい。

●C委員

子どもで死にたいと思っている人、実際自殺には至らないが、相談は増えてきている印象。そうすると今度は、SNSでも横行している薬物の問題などがでてくる。死にたいとは思っていないが、「今この場からいなくなりたい」と、薬物（市販薬も含める）を乱用して死に至ってしまう人も中にはおり、そういう方の対応も考えていかなくては。自殺＝精神疾患ではないが、適切な医療が必要な方も一部いるということを念頭に置いて、ネットワークの強化などに盛り込まれてくるといい。

●座長

様々な意見に感謝する。ほかに何かあるか。ないようなので、最後に事務局より、今後のスケジュールについて説明をいただく。

●事務局

今回は10月末にお願いしたい。また決まり次第ご連絡申し上げます。

●座長

これをもって、第2回西東京市生きる支援推進計画策定検討会議を閉会する。